

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 東の広場
(ユニット名)	Aユニット・さくら
所在地 (県・市町村名)	福島県白河市東釜ノ子字枇杷山66番地5
記入者名 (管理者)	計画作成担当 近藤 厚子 (管理者) 水野谷 公代
記入日	平成20年 3月19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		ボランティアの方々の日程に合わせ行事などを行う。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		利用者に対する姿勢を再確認して取り組みたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域密着のサービスとしての理念内容を、理解してもらえよう努力したい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		継続して隣近所のつきあいをする。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		利用者の気持ちや考えを尊重し、できる範囲で交流をしていきたい。また、地域への情報提供もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に根付くホームとして地域の高齢者等の暮らしに役立つよう取り組んでいる。		介護や認知症に対する疑問や心配事などがある時には、気軽に相談できるように、近所の方や見学者などに話をしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果等を見直し、具体的な改善に取り組んでいる。		具体的に分かりやすい内容で改善に取り組んでみたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議は行われている。委員の方々には、グループホームの特色や存在、現況を理解してもらえるよう報告や話し合いをしている。		グループホームに対する理解を深めてもらいサービスの向上に活かしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいる。		事業所の実情を積極的に伝える機会を作る。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるよう支援している。		全職員に知識を深めてほしい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等へ参加し、全職員認識を持って努めている。		馴れ合いの関係になってしまい、言葉遣い・行動で利用者が傷つかないように配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に限らず、不安・疑問などがあった時には、いつでも説明を行い、理解・納得を図っている。</p>	<p>信頼関係を築き、本人や家族の意向を尊重した介護ができるよう努力していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者機関・苦情処理委員会は、設置されているが、日々の生活の中で意見や不満など気軽に聞き解決している。</p>	<p>充分な対応ができているか疑問は残るが利用者一人ひとりの思いや要求、考え方を傾聴していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来所された際は口頭で、緊急の場合は電話にて報告している。また、毎月家族宛に郵送で、日常生活の様子・健康状態の報告・金銭管理・連絡事項等を報告している。</p>	<p>継続していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者機関・苦情処理委員会は、設置されている。また、投書箱などを設け、意見・不満・苦情をいつでも受け付けられるよう準備している。</p>	<p>家族の来所時には、職員から積極的に対応し会話に出てきた意見や不満・苦情などを聞き逃さず真剣に受け止め、全職員と協議によって改善・反映していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等で出た職員の意見は管理者を通じて運営者に報告している。</p>	<p>職員の素直な意見や提案を運営者へ直接聞いてもらう。 (運営者は、生の声を聞きたがっている為)</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整に努めている。緊急な場合でも休みの職員の協力を得て勤務調整をしている。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションを大切にし、助け合う気持ちを大切にしたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している。</p>	<p>馴染みの職員の異動や離職を必要最小限度に抑える努力をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部での研修を勧んで受けるよう機会を確保している。		研修者による内容報告会を行い、職員全員が共有し介護に生かして行く。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り入れていきたい。		連絡協議会等で職員の交流はあるが、相互訪問などの活動も行いサービスの向上を図りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別取り組みはされていない。		軽減の必要性は感じるが、ストレスは一人ひとり感じるところが異なる為、職員の発声がなければ、軽減するための工夫や環境づくりに取り組む事ができない。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者に対して管理者を通じて報告している。		各自、向上心を持って働くことができるよう支援協力していきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりのライフスタイルを尊重し喜怒哀楽を共にし、ふれあい協力して支えあえるよう努力している。		個別の介護計画に沿って支援している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状態や言語行動などをよく踏まえた上で、家族との連絡・相談を行いより良い関係を築いている。		利用者と家族の思いを職員が受け入れ一緒に支えていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事・外出などの家族とふれあう時間を設けるようにしている。		面会時は居室などを利用し水入らずでゆっくり過ごせる時間を提供している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行きたい、馴染みの人に会いたいという要望があれば一緒に出かけている。		思い出した人等がいる時は、手紙・電話等で支援している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関わりの中で職員がクッションになり、良好な関係が保持できるよう支援している。		十分に配慮し楽しいと思える雰囲気作りを目指す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終末期は、ホームで迎えているので関係を断ち切ることはない。		利用終了後も家族のもとへ、心理面のケアに伺っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望の意向を引き出すため、言葉掛けの工夫や雰囲気づくりと理解する努力をしている。		職員全員が把握し一人ひとりのケアを検討したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・実態調査票等をもとに把握に努めている。		継続していく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録などに記録し、現状を総合的に把握するよう努めている。		ケアプランに沿った具体的支援方法を検討し改善していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く生活していくための課題とケアを利用者・家族・職員等と話し合い意見を反映して計画を作成している。		利用者の視点に立ったその人らしく暮らしてつづけるための気持ちを尊重した介護計画となるよう支援していく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者・家族・職員等と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		利用者・家族・職員等話し合い、臨機応変に介護計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などに記録し、現状を総合的に把握し情報を職員間で共有し実践に活かしている。		記録はアプローチと結果の記録に努めたい。情報を共有することによって、よりよき介護計画の見直しができる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各行事・防災訓練・職場体験学習・運営推進会議など、協力しながら支援している。		多くの地域の方々の支援を受けながら、地域に根ざしたグループホームを目指す。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い必要に応じて連絡を取り対応している。		サービス機関の情報提供をする。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の意向や必要性に応じて協働している。		今後共、協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の同意に基づいて日常的・緊急時においても適切な医療が受けられる体制は、整っている。		専門医療に対しての治療は、利用者・家族の同意のもと医療機関を決めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	運営主体が認知症に詳しい医師が主治医となっている。		主治医の指示により、定期的に認知症に関する鑑別診断等行っている。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	日常的に健康管理や医療活用の支援を受けている。		継続して協働していきたい。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	心身状態・身体の回復の様子・経過を把握し、介護の注意点等を聞き対応できるよう努めている。		必要に応じて医療機関や家族との話し合いを持ち、利用者に不安な気持ちを持たさないよう心掛けている。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	早い段階では、話し合っていないが利用者の状態や状況に応じて行っている。		入所(契約)の段階では、大まかな重度化・終末期に向けた家族の考え等は伺っている。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	緊急事態や病状の悪化等、今後の変化に備えて注意する事・介護方法など医療と連携を取りながら進めている。		終末期に対する知識や技術を向上させる事で、冷静に対応できるよう備えていたい。介護面において利用者に対してできるだけ支援が行えるよう努力していきたい。
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	家族・面接・書類等で情報交換を行い、ダメージが最小限度に抑えることに努めている。		十分な話し合いや情報交換の機会を設け利用者が、どうしても理解できるか一番適当と思われる介護を支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を尊重した言動を心掛けプライバシーを損ねるような対応をしない。記録等個人情報の取扱いには十分に注意する。</p>	<p>今後も継続して支援していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が理解できるように個々に合わせた言葉掛けや質問方法で返答に困らないよう自己決定ができるような支援をしている。</p>	<p>その人らしい生活スタイルを大切にしたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合ではなく、利用者の希望に沿った支援を心掛けている。</p>	<p>利用者のペースに合わせた支援を提供できるよう努力する。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の希望に応じて理美容・買い物等でかけられるよう支援している。</p>	<p>行事や外出などには、本人の意志を尊重し身だしなみを整え出かけるよう支援している。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望のメニューを取り入れて、献立を作成するように心掛けている。調理・準備・片付けなども利用者のできる範囲で行う。</p>	<p>個々の健康状態・持病・咀嚼状態などケアカンファレンス等で話し合いながら取り組んでいる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品については、家族が好みの物を持参されたり、職員と一緒に買い物に出かけ購入し提供している。</p>	<p>本人任せにすると食べ過ぎてしまうなどの問題がでてくるので、本人と話をし納得した上で職員のほうで管理するなどの対応策をとっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>介助が必要な利用者に対しては、定期的な時間に誘導し気持ちよい排泄を心掛けている。寝たきり状態の利用者に対しても、定時の排泄介助のほか、一人ひとりの状況に合わせた介助を臨機応変に行っている。</p>		<p>個々の状況に応じて対応する。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望に沿った入浴をできる限り取り入れている。</p>		<p>一人ひとりの希望を取り入れかつ効果的に入浴できるよう努力したい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>居室や和室を利用し自分のペースに合わせた休息の時間を設けている。居室の温度調節・布団干しなどにも配慮している。</p>		<p>本人のペースを尊重しながらも、心地よく休める工夫をしている。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の特技や好きなことを吐くし、それによって自信や満足感・安心感を感じられるよう支援している。</p>		<p>職員側からの一方的な押し付けにならないように配慮したい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる利用者に関しては所持し、難しい場合には、職員が預かり必要に応じて渡す形で支援している。</p>		<p>継続して支援していく。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望・要望があれば、職員が付き添い支援している。</p>		<p>楽しみなどを見つけ出し、事業所内の生活だけでなく戸外に出られるようにしたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>行事の際、行きたい場所を挙げてもらい、できる限りそれに添えるよう支援している。</p>		<p>家族に協力をしてもらい、外出や外泊を支援したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はその都度取り次ぎ、本人からも気兼ねなくかける事ができ事務所が居室にてゆっくり話しができるよう支援している。		電話・手紙・面会等の少ない利用者に対して、精神面でのケアが出来るよう心掛けている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらえるよう家庭的な雰囲気を心掛けている。ゆっくり話し合いをしたい来客の場合は、居室にてお茶を飲んで過ごせるようにしている。		来客の少ない利用者に対する気配りに心掛けたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全対策のため、やむ負えない場合は、書類記入など承認を受けて行うことがある。		身体拘束をしないケアを徹底する。事業所では、身体拘束委員会もあり廃止に向けての取り組みを行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口を除いて居室・玄関は通常、施錠はしていない。安全管理のため、夜間は施錠する。		玄関には、外部徘徊に早く気付くようにする(危険防止)為開放時、音が出るチャイムを設置している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間での連絡・報告を密にし利用者の状態様子を把握し常に気配り・目配りをしながら所在確認、移動介助等安全に配慮する。		転倒防止・行方不明など事故防止のため、より一層の注意が必要である。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管管理は、鍵の掛かる場所に保管している。本人の持ち物については、危険が大きい物でなければ、職員が時々確認する程度で所持している。		認知症の進行状況によって、危険と判断される場合は、本人・家族に話し納得の上で対処していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間での連絡・相談・話し合いを随時行い事故を未然に防ぐよう努めている。事故を起こさないためのマニュアル等を作成し対応している。		研修会等で繰り返し身に付け慣れや過信をせず、個々に配慮した充分な対応をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一回救命救急に対する対応術を学んでいる。また主治医、看護師から指導はうけている。		急変や事故発生時に冷静に対応できるように、繰り返し訓練をしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力で、年2回防災訓練を行っている。また自治会等の地域の防災訓練にも参加し、地域の人々への災害時の協力を働きかけている。		地域の人たちとの交流の場や機会を増やし、確実な協力体制を組めるように努めたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への1ヶ月の報告や来所時の会話の中で今後考えられるリスクなどを、介護の分野から話している。		病気や加齢による予測不可能なリスクに対しても積極的に家族に説明していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間での引継ぎや様子報告・情報交換、バイタル測定値の記録等で体調変化や異変がある場合は、速やかに主治医に報告し指示を仰ぐ。		申し送り事項・引継ぎ・介護記録等で情報を共有し対応している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬確認、利用者の服薬について理解し症状の変化確認に努めている。		薬についての基礎知識を職員全員が理解できるように努めたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容を重視し利用者の状態によっては、乳製品を多めに提供することもある。運動量や水分の摂取量を記録把握し予防や対応に役立てている。		体を動かす事・水分を多めに摂る事・摂生することが大切であることを理解できるよう声かけていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の歯磨き・口腔ケアは支援しているが、日中の歯磨きは、利用者本人の意志にまかせている。介助が必要な利用者は、状態に合わせて行っている。		一人ひとりに合ったケアを心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に1500を目標に置き、介護記録・ホワイトボードに記録し職員が把握し易いようにしている。		利用者一人ひとりの状態を意識して支援していけるようにしたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	委員会を立ち上げ感染症に対する基礎知識や対応策などを検討し実行している。		職員の意識の中にも、早期発見の知識を心掛けていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、買い置きせずその都度発注し使用している。調理器具については、漂白剤を使い毎日消毒している。		継続して管理したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般の家庭と同じように花や植木を植えて、違和感の無いような工夫をしている。夜間も照明器具などを使用し、明るい雰囲気になっている。建物周辺も果樹・花・木・芝生など植えてあり、心地よく過せる環境整備を心掛けている。		周辺の掃除や整備などに気を配るようにしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感があり、落ち着いた雰囲気になるよう工夫している。季節の行事など季節感を感じる工夫も取り入れている。また、トイレなど汚れやすい場所は、その都度清掃し、気持ち良く使用できるよう配慮している。		継続して配慮していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキや和室、廊下にある椅子などを利用し、一人の時間や利用者同士の寛ぎの時間を確保している。		利用者一人ひとりの所在や状況を把握するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持参してもらい今までの生活空間から、かけ離れた居室にならないよう、居心地よく過ごせる工夫をしている。		居室には収納スペースがないためオムツが剥き出し状態になってしまう。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にエアコン・換気扇など設置されている。また、温度計も設置されており、温度設定はこまめに行っている。利用者によっては、加湿器を使用し乾燥対策も行っている。		継続しておこなっていききたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりなど身体機能を活かして安全に生活が送れるように工夫している。		目配り・気配りをし、安全に生活が送れるよう配慮している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口に居室番号や色分けした暖簾を掛け、トイレ・浴室の表示、廊下にテープを貼るなど工夫をし、混乱防止に努めている。		混乱しないよう状況に応じて対応していききたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候によりウッドデッキに出て、歩行運動・体操・洗濯物干し・布団干しなど利用者と職員が、一緒になって活動できるように活かしている。		景色を眺めたり日光浴をしたり気分転換を図るのにも活用している。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症を患っている方であれば、誰でも利用できます。

(地域密着型サービスなので、市や地域の方が優先となります。)

利用者に対しては、その方に合ったケアを心掛けて支援しています。

利用者の意思を尊重し、家族と職員が力を合わせ支援してまいります。

また、医療法人が母体となっておりますので、医療面からのサポートが充実しています。

専門的分野に講師を迎えての、外部・内部研修会も定期的に行われ、職員の知識と技術の向上を目指し、日々努力をしています。